

招 へ い 研 究 者 報 告 書

招へい研究者氏名	インドネシア国家イノベーション調査研究庁 Irwanda Wisnu Wardhana 氏		
招 へ い 期 間	(西暦) 2024 年 12 月 3 日 ~ 2024 年 12 月 16 日		
受 入 機 関	関西大学		
受 入 担 当 者	所 属	政策創造学部	資 格 教授
	氏 名	石田 成則	
講演会実績			
○研究者向け講演会タイトル：大規模自然災害におけるプロテクション・ギャップ			
○日時：2024 年 12 月 12 日 17:00~19:00			
○概要： 近年、日本とインドネシアにとって共通の重大な課題となっている地震、津波、火山噴火などの大規模災害に対する備えとしての保険制度の整備や、その社会的認知の向上が不可欠である。現在、両国は災害への対策や保険普及のレベルにおいて異なる課題に直面しており、相互に学び合うことでより効果的な解決策を見出すことが期待し、Irwanda Wisnu Wardhana 博士（インドネシア国立研究革新庁局長、関西大学客員研究員）、諏澤吉彦教授（京都産業大学経営学部）、永松伸吾教授（関西大学社会安全学部）を招き、日本とインドネシア両国における災害対応と保険の現状、課題、そして将来的な展望について議論を行った。			
○学生向け講演会タイトル：Developing Disaster Risk Financing Schemes in Indonesia: Lessons Learned from the 2022 Cianjur Earthquake			
○日時：2024 年 12 月 5 日 17:00~19:00			
○概要： 本講演会では、インドネシアにおける自然災害の実態と地震保険の必要性について講演が行われた。政府の救済措置に依存する現在のリスク移転メカニズムの限界を指摘し、2022 年のチアンジュール地震後に実施したフィールド調査をもとに、住民の保険加入意識に関する分析を行い、調査結果をもとに、保険会社への不信感、知識不足、経済的負担が主な障壁であること等を講演された。分析結果を踏まえ、官民連携による啓蒙活動の強化、保険商品の普及促進、政府と保険業界の連携強化等を提言し、持続可能な災害リスク管理の方向性を示している。講演後には、1 時間に及ぶ活発な質疑応答が行われ、学生からは保険の普及方法やインドネシアの住宅の現状、政策提言の実現可能性等について多くの意見が寄せられた。			